校友時報

昭和48年7月21日
編集人兼発行所
秋田県能代市追分町4番26号
秋田県立能代高等学校新聞部
印刷所 大勝堂印刷所

大成功来たす

コンサートフェスティバル

生徒会主催のコンサートフェスティバルが6月30日に本校体育館で行なわれた。これを開催するという計画は昨年から徐々に進められていたものである。文化クラブの活動を盛り上げ、それらの良さを知らせるという主旨であった。

第一回であり、不十分な点もあったが、多数の観客に好評を博した。今回のコンサートフェスティバルは、生徒会主催による文化局行事としては、生徒の関心が高く、成功に終った。沈滞の生徒会活動からの脱皮として注目される。

低迷生徒会脱皮

各部の合同参加なる

去る六月三十日土曜日、本校体育館で午後二時からの昼の部、六時からの夜の部と二回にわたり第一回コンサートフェスティバルが行なわれ、大成功のなかで幕を閉じた。この催しは生徒会主催の最初の試みであった。

このコンサートは文化局の各部が、運動部に比べ、活動が地味であるから日頃のクラブ活動状況を紹介するという意味で、企画部が中心となり、各部合同参加の形で行なったものである。

今回、出演したクラブは、第一部にブラスバンド、第二部にギター部のメンバー。また、スタッフとして、渉外・宣伝・企画・演出・受付・案内・その他事務処理を企画部が、照明は演劇部、美術・ポスター等は絵画部・書道部、報道・記録は写真部、効果・音楽・アナウンス等を音研が、それぞれ受け持ってほとんどの文化部が参加したのが特徴である。

第一部ではブラスバンドが演奏した。第二部では、初めギター部が「禁じられた遊び」、「アルハンブラの思い出」などクラシックギターの名曲を聞かせ、次にフォークを演奏し歌った。このころには、出演者にも堅さが見えなくなり、催しも最高調に達した。最後はブラスバンド、ギターの合奏のもとで、歌謡曲を歌った。舞台上では終始熱気がむんむんしていた。入場者は、昼の部では約七百人、夜の部でも予想以上に多く、五百人を越えていた。

今回の催しは大成功だったが、やはり、第一回目ということもあり、次のような問題を残した。一つは、準備に余裕がなかったことである。スタッフ、出演者、企画部の三者間での検討や打ち合わせが十分行なわれず、また、練習不足もあり、本番になって、運営がスムーズにいかず、幕間の準備に手間取るなどの不手際があった。また、前売券を開催日の十日前から発売したものの初めは売り上げが伸び悩み、期日までにどの程度売れるか不安もあったが、その後、企画部の精力的な努力でほとんど売れたのである。しかし、このような問題を残したものの、処女公演としての総合点では合格点であった。

さらに、これが顧問の手を全く借りずにやったことを含めると、すばらしい出来と言える。

部説

生徒会改造論

今年度の生徒会活動をみると、各種委員会、コンサートなど、生徒自身の手で企画運営されているものが多い。しかし、それは企画部内の努力にとどまっており、依然として一般生徒の参加は少ない。

生徒会の目的は、学校生活における生徒の健全な自治をめざすものであると思う。現生徒会はこの主旨からはずれ全生徒による自治から遊離した存在になっている。

そこに、生徒会を改造する必要を感じる。改めるべきものは、生徒会会則と機構である。この会則と機構を白紙に戻して考え直すことである。案として、生徒の自治を達成するために、国家のように立法・行政・司法の三権を分立し互いに牽制と均衡を保たせる。詳しく述べると、立法部は、各H・R・を一単位とし、問題を討議し結果をH・R・の代表が代表会で討論し、会則、規則など生徒の生活に必要なことを決める。現行の生徒会との違いは生徒の意見を重視し、規制すべき事柄（法律にあたる）を生徒の手でつくることである。行政部は、企画部が中心で、そのもとに、各種委員会を設ける形で必要性により委員会の設立、廃止を行なう。内容は立法部で決められたことをそれぞれの委員会が行なうものである。

司法部は、規則の執行や現在生徒指導部で行なっていることの一部片代わりなどを行なう。

生徒会長は生徒会全体の責任をもち、指導にあたる。それぞれの責任は各委員会の議長、委員長にもたせ、特に立法部は生徒会長、行政部は企画部長がそれに当たる。顧問は適切な指導と助言を各委員長に与える。会則はこの機構に即するよう大幅な改正をする。

役員はその委員会などの内容により、クラスからとか自由参加などの形をとる。なお、現在の役員の中でも会計や庶務はそのままで生徒会との関係を断ち、学校とクラスの間における存在とする。この役員の任務については以前から問題が起きているので、早く対策を考える必要がある。

さて、一応生徒会改造案の大筋を上げたが、このような改造を行なうことは、大へん困難である。（現状の生徒、および生徒会にとって）改造するためには、学校側との話し合いを徹底的に行ない、生徒の自治を確立することである。このような生徒会が出来たとしても、その後も、学校側と生徒との話し合いは常に保たねばなるまい。

この案は理想として掲げたものだが、現に秋田高校などではこれに近い形の生徒会自治が行なわれている。検討すべき点も多くあるだろうが、これを基によりよい生徒会を生み出し、生徒のための生徒による自治が行なわれることを希望する。そのためには真に生徒自身の自覚が必要だ。

期待受ける愛好会登場

活発さ見せる女生徒

この度、二Gの三浦久美子さんを先頭にバレー愛好会が発足された。女子の間では、昨年から少人数ではあるがどんな運動クラブでもいいからやりたい、ということが話題にされていた。愛好会が結束されるまでの経過は、まず、人数集めを行ない、練習場を決めて顧問教師の依頼というぐあいに手順を踏んで結成にこぎつけた。顧問には深川先生がなられ、共に練習に参加している。深川先生は、バレーの経験があるということで愛好会の話を持ち込んでみた。先生は、休み時間などに女子がサークルでバレーを行なっているのに関心を持っておられ、年々女子生徒が増加しつつあるのに、まだ、女子の運動クラブが一つも出来ていないという現状に同意し、一つやってみようというお気持ちになられたとのことである。

会員の総数は、一年八名、二年十名の十八名である。そのうち、中学時代の経験者が三名もいるとのこと。しかし、他の会員のほとんどは未経験者である。愛好会に入会した動機を会員に尋ねてみると、「バレーが好き」、「高校時代にも何か運動をしてみたい」、「女子の活動範囲を広げたい」、「体力保持」、「勉強以外に能高生としての活動をしたい」、「学校生活を充実させたい」等々であった。本校では、女子のクラブというと文化局しかなく、中学時代に運動をやっていて高校でもどうしてもやりたいという人たちは、マネージャーという形で運動部に加入した例が二、三あったという程度である。バレー愛好会結成のことを一般生徒に聞いてみると、「女子が運動するということは結構感じがいい、頑張ってほしい」という声が多かった。練習は、日曜を除いて毎日グラウンドわきのテニスコートで行ない、雨天の際は準備体操、ルールの勉強をするということである。

今は、愛好会として活動しているが、やがて同好会となり、後に正式のクラブに昇格するよう彼女らは土台作りに一生懸命である。

ともあれ、このバレー愛好会の会員が、本校の女子運動部皆無という現状を改善する原動力となるかも知れない。その意味でも彼女らの活発な活動と努力を見守りながら、声援をおくろう。

応援予算赤字

七月五日に一年D組で生徒委員会が開かれ、各種スポーツ大会の応援に関する費用について話し合った。出席できない場合は、代理人を出すということであったが、二クラスの欠席が見られた。

初めに応援団の予算が二万八千円ほど不足しているということであった。その出費内容は、全県総体で籠球と陸上競技が他の種目より早く行なわれたために、二度にわたって秋田市へ出かけたための五千五百円の出費、全県選抜に野球部の出場が不明確であったために正確に予算化できなかったので七千五百円の旅費の穴があき、また、昨年購入した校旗をつけるポールの代金九千円を未請求のままであり、本年度の会計に繰り越し支払うことにしていたということから、その不足分を予備費から支出してほしいとの要請を認めた。

次に、二十日から行なわれる全国高校野球選手権大会の秋田県大会に応援団を初日からブラスバンドを二日目からそれぞれ例年通り派遣することになった。しかし、PTAや体育後援会からの援助を含めても、期待どおり野球部が決勝まで進出すると五万三千九百円が足りなくなる。そこで、この不足分を総体の残金十万五千五百円から支出するということにほぼ全員の賛成で承認された。

スクールバスに難点

新校舎改築につき、現在植えられている立ち木は、グラウンドを囲む桜の木を除いては、ほとんど持って行くそうである。武道館、図書館の準設備舎は、市の方に置いて行き、新しくそれらを備えつける。食堂（合宿所）はまだはっきりしていない。

新校舎には、運動クラブの各部室を体育館わきに並列にほとんどすべて設置し、文化クラブの方は三階のあいた部室をあてるということで全クラブの部室は、今のところ困難のようである。

教室数は、現在と同規模で一クラスを五十人前後を基準にし、二十一クラスの編成である。

完成のメドは来年十月ごろと、予定より遅れ気味である。完成したらただちに移転するが、交通機関の問題がまだ、はっきりしていない。学校当局では、スクールバスを東能代ー仁井田間と坊ケ崎ー大内田ー塩干田ー学校の案を出したが、現在のままでは道路幅が狭く、バスが通れない状態である。そのため、秋北バスや市の方との話し合いを続行している。なお、移転してからも、バイク通学の禁止は解かないとのことである。

三角点

▼人間がこの世に存在している。これは、事実である。しかし、この無限の空間の中の、一点にも満たない地球の上で、人間はこの大自然にいったい何を働きかけたと言うのだろうか。一生懸命になって、人類と言う集団より生じた利己主義によって、自からの首を締め続けていることを気付かずに、地球の自然を破壊し続けてきた。人間にとって最も重要な、なくてはならないこの地球の自然をだ。

▼公害のためにどれだけの人間が死んだか。これは大変な問題である。だが公害（人間の所作）がどれだけ大きい自然の営みを破壊し続けたか、それがより大きな問題であろう。たとえひとつひとつの自然破壊が、具体的にはまだ大きくわれわれの目に映らなくとも、それらが積もり積って大きな自然破壊にならないと誰が言えよう。しかし、人類が、また地球が、今まで歩んで来た歴史を変えることはできない。そして、人類は、これから先五十年以上は太陽系外の天体へ行くことは不可能であろう。つまり、この地球上でどのように生きて行くか、それが最も重大な問題なのである。

▼人類は滅亡してはならない。破滅へ向っては絶対にならないのだ。それゆえに、人類は、己れもこの地球の一産物でしかないということを自覚し、ひとりひとりが人類最優先といった、利己主義的な考えを捨て、自然における人間の位置付けを自覚しなければならない。そして、人間によって破壊された自然を直し、人間が自然の一産物として、自然にとけこみ、どのように、自然を壊わさずに、自然を最大限利用していくか。これが現在のわれわれに課せられた急務であろう。そしてそれは、知恵のある人類がその知恵ゆえに行なわなくてはならないものではあるまいか。人類が生きのびるためにも、また、この地球が生きのびていくためにも、必要な。

学生のみせ
キムラヤ
畠町
2－5535

くすりのことなら
きたむら薬局
駅前TEL.2－3659

タダのコーラ
飲む時ばかりじゃ
なくて……
普段の日も来て下さいよ！
パーラーもあります。
二人で楽しいショッピング＊＊
イシヤマ
能代市はたまち ☎ (2)2349

メガネの カモヤ
畠町 TEL (01855) 2－3740

夏を美しいカラー写真で！
──カメラ・写真材料・DPE──
富士カメラ店
能代市柳町 TEL ② 4576・③ 3307
旧名 カメラのデン助

Summer!!
躍動の季節!!
スポーツ用品は
納谷スポーツ
西通り町 TEL 2－3429